

水痘ワクチンが定期接種になります。

2014.02.04

2月に入ってインフルエンザの流行が本格的になりました。今年は、A型2つとB型の3つが同時に流行するという極めて珍しい状況でインフルエンザが蔓延しています。

いつもながら、睡眠を十分にとり、インフルエンザをはねのけてくださいね。

今年の秋から、水痘ワクチンの定期接種化が行われるということになりました。水痘（水ぼうそう）は、水痘-帯状疱疹ウイルスによる感染症で、体に水疱ができた後かきぶたができて治るという一般的には軽症の病気です。日本では年間約100万人の感染があり、そのうち1000名ほどが入院し、約20名が水痘で命を落とすことが知られており、小児科医にとっては常に重症がありうると警戒しながら見ている病気でもあります。

年を取ってから発症するといわれる帯状疱疹もその昔水痘でできた水疱からウイルスが神経に入り、その後体の免疫力が落ちた時などに発症するとされ、中には痛みのために強い鎮痛剤が手放せないと苦しんでいる方がいます。

このような死に至る可能性がある水痘をしっかり予防していきましょうという理念でワクチンが始まることになりました。

現在、定期接種化にあたって考えられている方法は1歳から2歳までの間に3か月以上の間隔をあけて2回接種する。3～4歳の子供には2014年度中に1回のみ接種を行うという方向で話が進んでいるようです。

現在すでに渡島檜山管内では水痘ワクチンを無償で行っている自治体もありますので、詳細は新年度の各市町村の広報をご覧ください。

現在1歳を過ぎて水痘のワクチン接種を行える年齢のお子さんは1回目の接種をできるだけ行って、2回目から定期の分として受けるようにしてください。昨年12月から今年1月にかけてずいぶんと水痘の流行がありました。水痘は1年中流行してもおかしくない病気なので定期化を待たずに少なくとも1回はワクチンをするのが肝要と考えています。